

語学センター [法学部・商経学部・理工学部・薬学部・文芸学部]

(14) 国際化への対応

a 国際化への対応の取組 語学センター

1. 教育システム

(1) 現状

① 教育目標

21 世紀にはグローバルな国際社会の一体化がますます進むであろうと予測され、期待されている。すでにそれを予兆させるものとしては、インターネットで繋がれた地球上の物理的時間と距離が極度に短縮され世界共時的に情報を共有できる時代が到来していることがある。この新しい時代への突入過程で要求されているのが世界共通言語の必要性である。

現今の世界情勢の流れから見ればそれが英語になるであろうことはほぼ既定化された事実である。グローバルな国際社会を生き抜くためには、英語の習得が必要条件となる。

日本は学校英語教育では相当の時間をかけてきた。それにもかかわらず、はかばかしい効果が上がっていないのが現状である。そのことは TOEIC、TOEFL の結果を国際比較で見ると明らかである。文法や reading では大変な実力がありながら、listening, speaking においては惨憺たるものである。それは、実際に一部の人を除いては英語を伝達手段として活用する場も機会もほとんどなく、受験に必要な試験科目としてのみ認識され、学習されていたためもあるだろう。しかしながら、近年英語教育の見直しの結果、コミュニケーション能力の養成にはかなりの時間が取られ、レベルの向上が図られその成果が部分的に見て取れるようになった。

ただし、グローバルな意味でのコミュニケーション能力の進歩ということになるとそれは疑問である。国際社会においてネゴシエーションができるほどの英語力を養成するには、正規の教育、学校授業だけではとてもその力を身につけさせることは難しい。

本センターは、正規の授業時間では達成しがたい分野を補完するという意味で、コミュニケーション能力をもっと伸ばしたいという向上心、モチベーションをもつ学生を対象にして、新しい時代の到来を先取りする形で昭和 63 年に設置された。ネイティブ・スピーカーの教員による少人数クラスの英語コミュニケーション養成講座が中心である。さらには、TOEIC、TOEFL、英検など各種英語検定のための講習会も設けている。

その後、アジアとの経済交流が深まる中で特に隣国中国への関心の高まりが多く、多くの学生から示され、平成 7 年から会話を中心とする中国語会話講座も併設し、学生の熱意に応えている。

② 教育、業務内容

語学センターは、上記の教育目標達成のために、つぎのような教育内容をもっており、さらにそれに付随する各種の業務を行っている。

a) 英会話講座

b) 商経学部女子特修コース、文芸学部、短期大学部英会話受託講座

c) 各種英語検定試験準備講習会(春期・秋期)

ア.英検受験講習会 イ.TOEFL 講習会 ウ.TOEIC 講習会

d) 中国語会話講座

e) TOEIC 団体受験 (就職部と共催)

f) ビデオ・ライブラリー

英語、ドイツ語、フランス語、中国語の会話教材および映画などのレーザー・ディスク、ビデオ・テープを用意し学生が視聴できる設備を備えている。座席数は23席である。

g) CNN ニュース 24 時間受信放映し学生の視聴のために提供している。

h) 教材の貸し出し

各種語学検定試験学習教材や会話教材を貸し出している。

i) 自学習室

独立したブース24席が利用できる。

j) アンケート集計

各講座、講習会に対する学生の意見を集計し次年度の運営の資料としている。

k) 「語学センター NEWSLETTER」発行

センター行事案内、新着教材案内、TOEIC 団体受験案内およびスコア発表など

l) 外国語新聞・雑誌の閲覧

③ 専任教員と担当科目

a) 専任教員数

表-1 専任教員数(平成11年度) ※①本センターは講師のみ

②特任講師は講師に準ずる職位

講師	特任講師	計
1	2	3

b) 専任教員と担当科目

表-2 専任教員と担当科目(平成11年度)

氏名	担当科目名
ピーター B. グラント	英会話講座・英会話受託授業
トーマス C. クック	英会話講座・英会話受託授業・TOEIC 講習会・TOEFL 講習会
チャールズ L. クラーク	英会話講座・英会話受託授業・TOEIC 講習会

④ 非常勤教員と担当科目

a) 非常勤教員数

非常勤教員(平成 11 年度) 12 名

b) 非常勤教員と担当科目

表-3 非常勤教員と担当科目(平成 11 年度)

氏名	担当科目名
ドナルド R. ビーバー	英会話講座
マイケル J. ウォーカー	英会話講座
カルロス ラミレズ	英会話講座・短期大学部受託授業
アンソニー J. シルバ	英会話講座・文芸学部受託授業
ディビッド スティーブソン	英会話講座
ディビッド E. ブラムリー	英会話講座
エンジェル M. ベラ	英会話講座
何 曉 毅	中国語会話講座
鄭 藝	中国語会話講座
松村優子	英検講習会
小倉慶郎	TOEIC 講習会・TOEFL 講習会
中川 昭	TOEIC 講習会

(2) 点検・評価

① 講座・講習会

昭和 63 年に設立された本センターは、「語学センター運営委員会」での審議を経るとともに、学生のアンケートなどを重んじながら各種改善を加えて現在に至っている。4 月の受講受付時には定員を越える申し込みがあり、やむなく抽選という手段で受講生を決めている。講座の数を増やす必要があるが、教室設備の関係でその余裕は今のところない。講座の内容については、講座の募集案内を発行する際、講座の内容、レベルも明示しているので受講生の間で齟齬を生じることはない。受講を完了した学生のレベルの向上の問題については、センター事務室で細かに調査をした記録によれば、よい結果が出ている。ただ、1 年間を通じて受講を完了できないでドロップアウトしてしまう学生のいることも否定できない。単位のある講座として認められていないこともそのひとつの要因であるが、なによりも学生のモチベーションの継続援護、頑張りに欠ける学生の定着支援が望まれる。

② ライブラリー、学習室の利用

本センターでは現在利用できるあらゆる手段を用いて学生にセンター利用案内を呼びかけ、情報を提供している。語学センターのサービス内容について承知している学生は施設の便利

さ、環境を愛しよく利用している。大学全体の学生数からみると、利用状況は盛んであるとはいいいがたい。

③ TOEIC 団体受験

就職のためには TOEIC の高得点者が有利であるという就職部などの案内の効果があり、平成 11 年度第 1 回は 531 名、第 2 回は 795 名の受験があり、数の上ではますますの成果ではないかと考えられる。さらに学内全体の関心を高めるため、教養部の「英語特修」科目にも TOEIC 講座があるのを利用し、教養部からの受験奨励も必要である。

(3) 長所と問題点

① 語学講座・講習会

英会話講座、受託英会話講座では、4 月の受付時には定員を上回る申し込みがあり、モチベーションの高度な学生の英語力の向上は明らかになっているが、年間を通して修了までたどり着けない学生がでてしまうところが問題である。教養部の英語授業との連携を取りながらの授業運営が必要である。

TOEIC 講習会については時代の風潮を反映してさらに受講者の増加が見込まれるため、授業マスを増すことを考慮すべきである。さらに就職部との連帯を緊密にし TOEIC 団体受験者の数を一層増加させる努力を怠ってはならない。

TOEFL 講習会はアメリカの大学へ留学を希望する学生が比較的少ないため現状のままでよいのではないかと。

英検講習会は近年英検への人気低下し、受講希望者の数が極度に減少しており廃止を検討したが、もう 1 年様子を見てみることにし、ゆくゆくは TOEIC にマスを譲ることが予想される。

中国語会話講座は一時の中国語ブームも沈静化したようで現状の授業形態を維持する。

本センターで開講している外国語が、英語と中国語の 2 カ国語だけというのでは国際化が叫ばれている現在十分その機能を果たしているとはいいいがたい。グローバルな英語時代が到来するだろうとはいえ、異文化理解、相互交流のためにももっと多くの外国語を開講すべきである。

② 語学センターにおける各種サービス

かなりの設備、サービスを用意している語学センターでありながら、学生・教職員の利用がはなはだ少ない。外国語の必要性への認識の低さのせいであると思われる。グローバルな時代という認識を高める啓蒙活動が要求される。講座・講習会、設備・サービスの宣伝方法の改善工夫を検討しなければならない。

(4) 将来の改善・改革に向けた方策

① 語学講座・講習会

ドロップアウトする学生がでる要因のひとつに単位認定の問題がある。語学センターの講座・講習会で修了しても単位は認定されない。あくまでも学生の積極的な外国語吸収意欲のために出発したものではあるが、何らかの形でその意欲を評価するべきであろう。単位認定し成績表にその成果を示すことができるなどの方法を模索しなければならない。

さらには最初に受講を決意した意欲を継続させるべく、モチベーションを刺激し続けなければならない。例えば、学部における英語を使つての授業である。ネイティブとは語学教師に限らない。専門課程にも外国人教師がいて、英語で重要科目の講義をするのもいいのではないか。

英語、またはほかの外国語を使つての授業であればどうしてもその外国語を習得すべき必然性を学生に持たせることになる。

本センターで提供する外国語をもっと増やす必要がある。特に、最も近い国韓国・朝鮮語講座は当然設けるべきである。本センターでは平成 13 年度よりハングル語講座を予定している。

② 語学センターにおける各種サービス

ライブラリー、自学習室の利用度を高めるために、まず教養部の語学教員への案内を徹底し学部の授業での利用を促しセンターの存在を周知してもらう。NEWSLETTERに工夫を加えて学生の目を引き付けなければならない。

2. 教育活動

(1) 現状

① 英会話講座

英語を用いてのコミュニケーション能力の養成を目標としている。全学部生、院生を対象としており、受講料は取っていない。4月に受講希望者を募り、1クラス定員を25名とし、定員を越えた場合抽選で25名を決定する。教員はすべて英語を母国語としているネイティブ・スピーカーである。小人数クラスの特色を発揮すべく、教員と学生の直接対話式授業で、クラス内では英語のみ使用言語として、いきいきとした応答を引き出し、英語での発話をうながしている。評価はクラスでの学生の発話、討論、口頭発表や筆記小テストの結果をもとに出席率をも考慮した総合的な評価をしている。単位の認定はしていない。

なお英会話講座には、商経学部女子特修コース、短期大学生も参加しており単位が認められている。女子特修のクラスを別編成するのではなく、英会話講座クラスの中に分散し他学部の学生と一緒に受講している。

文芸学部英会話受託授業は英米文学科 2 年生の必修科目で、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力習得を目標としている。

② 中国語会話講座

基本中国語会話の習得を目標としている。初級コースと中級コースを設け全学部生、院生を対象にし、受講料は取っていない。募集は英会話講座と同じであるがコース数が少ないため時には定員の25名を越えることがある。抽選で受講生を決定している。中国語ネイティブ教員が担当している。基本だけに終わらず発話能力の習得に力をいれている。評価はクラスでの発表、筆記小テストおよび出席率でおこなっている。単位認定はしていない。

③ 各種英語検定試験準備講習会

TOEFL, TOEIC 講習会は有料で、ネイティブの教員と日本人教員がペアで担当している。ネイティブ教員は listening, speaking を担当し、日本人教員は文法説明、reading を担当し試験に備えている。TOEIC 受験については、年 2 回ある学内団体受験を勧めている。

英検は日本人教員が担当し有料である。2 級で開講しているが、準 1 級にするか、希望者が少ないことから廃止も選択肢のひとつとなっている。

④ 教育設備・環境

a) 講義室

表-4 講義室・演習室および主な機器

室名	室数	総面積	主な機器
LL 教室	4	347.00 m ²	モニターテレビ、ビデオ、LL コントロールコンソール、大型スクリーン
講義室	4	237.00 m ²	モニターテレビ、ビデオ、レーザーディスクデッキ

b) 掲示板など学生への連絡手段

本センターの掲示板または教室などに掲示し、授業や講習会など、全学的な募集については、各学部の学生用掲示板に掲示し、また NEWSLETTER やリーフレットでも案内をしている。

c) 担当マス数（平成 11 年度）（講習会を含む）

表-5 担当マス数

	マス数	一人当たりマス数	総マス数
専任教員 講師	6.0~8.0	7.3	22.0
非常勤教員			38.0

※ 1 週間のマス数

d) 教育に関するガイダンス

各学部に対する教養部の履修ガイダンスの時に、本センターの教育・業務内容を要約したリーフレット「語学センターご案内」を一緒に配り、本センターの存在、教育活動を説明している。

(2) 点検・評価

英会話講座は毎日昼間の全時限に開講している。総定員 775 名のところに毎年これをはるかに上回る応募者がある。中国語会話講座も定員を越えている。そのためやむをえず抽選で受講者を決めている。これは語学センターの現状の教室設備からいえば仕方のない処置である。抽選で通った学生が途中でドロップアウトしてしまう現状を考えると、抽選でもれた学生に対し補欠者をつくってフォローアップをしている。

各種英語検定講習会の応募が少ない。時代認識がまだまだ浸透しきっていないのであろうか。

単位が認定されないこともひとつであろう。教養部に英語の科目のなかで TOEIC も TOEFL も開講されており並立する形で学生の便に応じるべきであるが、本センターからの積極的姿勢を見せなければならないだろう。

すべての講座、講習会をドロップアウトすることなく修了した学生が結果に満足している点は大いに評価できるところである。

開設後 10 年以上経過しているため設備、機器などに時代に即応しなくなっているものもあり、今後の課題である。

(3) 長所と問題点

英会話講座、中国語会話講座についていえば無料で会話能力の向上をはかれるという意味で、学生の応募が多数あり、有効に作用しているものと考えられる。ただ、多くの学生の希望をかなえることができていない面で対策が必要である。

逆に、各種英語検定講習会については、TOEIC・TOEFL という時代に即応した有効な講座であるにもかかわらず、応募者の少ないのが一考を要するところである。全学的な学生指導が求められる。英検については時代の趨勢のため応募者の減少はやむをえないところである。

(4) 将来の改善・改革に向けた方策

英会話講座、中国語会話講座については応募者の何人かを切り捨てるという抽選方法を取らざるをえない状況だが、単なる抽選によるよりモチベーションの高い学生を選ぶ方法を模索しなければならない。時間的余裕があれば選抜方法にプレースメントテストなどをとりいれたい。また、半期集中のセメスター制導入によって、開講講座と受入数を倍増させることでドロップアウトする学生の数も減少することが期待できる。

TOEIC・TOEFL の応募者を増加させるには、グローバルな時代における英語の必要性を全学的に学生にアピールするべきである。手段として専門課程での英語での講義をもうける。これは留学生のためにもなるだろうし、学生の英語への動機付けを刺激することにもなるであろう。さらに外国への留学、交流を積極的に行い学生の関心を盛り上げるべきである。ドロップアウトの多さは、最近の大学生は英語力が相当低下している実態から生ずるものとする。その方策として平成 12 年度より、英語を基礎から再挑戦する「英語リニューアル講座」を開設

することにした。

3. 研究活動

(1) 現状

①研究活動

a) 専任教員数

表-6 専任教員数(平成11年度)

講師	特任講師	計
1	2	3

b) 研究活動

表-7 研究活動・主な学会活動(平成7年度～11年度)

a. 氏名: ピーター B. グラント(講師)

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
b) 主研究テーマ	英語教育、英語授業における歌の利用、カト系少数言語の現状 ハワイ・スターにおける日本語借入				
c) 主学会活動	JASEC	JASEC, JALT	JASEC, JALT, 日本カト学会、大阪電気通信大学文学語学研究会		
d) 著書数					
e) 発表論文数	4	3	1	1	1
f) 学会発表数	2	1	0	0	1
g) その他					

a. 氏名: チャールズ L. クラーク(特任講師)

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
b) 主研究テーマ	英語教育、英語授業における歌、ビデオ映画の利用、ハワイ・アメリカの歴史と現在、文化意識と固定観念				
c) 主学会活動	JASEC		JASEC, JALT		
d) 著書数					
e) 発表論文数	2	3	1	1	1
f) 学会発表数	0	1	0	0	0
g) その他					

a. 氏名：トーマス C. クック（特任講師）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
b) 主研究テーマ	TESOL（第二言語としての英語の教育法）、聴き取り能力とクラス法の応用、プロセス・ライティング 神経言語プログラミング、加速学習法				
c) 主学会活動	JASEC、JALT、JACET				
d) 著書数					
e) 発表論文数	2	1	1	1	0
f) 学会発表数	0	0	0	0	0
g) その他					

②研究費

学内研究助成金

一般研究助成金

表-8 一般研究助成金総括表

申請数 採択数 交付金額（単位：千円）

平成7年度～11年度 0 0 0

③紀要等の発刊

紀要名：Kinki University Language Institute Journal（近畿大学語学センター紀要）

4. 語学センター組織および教員組織

(1) 現状

①語学センター役職者とその選出

所長：学長の推薦に基づいて理事長が任命する。

教務主任：所長の推薦に基づいて理事長が任命する。

②委員会の機構、機能

語学センター運営委員会：語学センターの講座（授業）と講習会の運営、教育方針そのほかについて協議する。

委員会は、所長、教務主任、語学センター講師、各学部選出の委員によって構成される。各学部選出の委員は、所属学部長の推薦、または同意をえたうえで、所長の推薦に基づき学長が委嘱する。

5. 図書資料

(1) 運営状況

①CD/ｶｯﾍﾟｯﾄ付図書貸出

英・仏・独・中国語の会話教材やTOEFL、TOEIC 問題集、英検、仏検、独検、中検の問題集を貸し出している。級別や点数別の教材を幅広く取り揃えている。

②ビデオライブラリー

マルチディスクプレイヤーとVHSデッキを備え付けた 23 席のブースで、語学や映画の視聴覚教材を視聴できる。映画については、日本語字幕の出るもの、英語字幕を必要なときに ON/OFF できるもの(クロズド・キャプション)、英語字幕とシナリオ本がついているもの(CINEX)がある。

③自学習室

個人学習用に独立したデスクで、コンピューターやオーディオ機器を持ち込んでの学習も許可している。

(2) 蔵書冊数 (平成 12 年 3 月 1 日現在)

表-9 CD/ｶｯﾍﾟｯﾄ付図書貸出用

	英 語	仏 語	独 語	中国語	日本語	計 (単位)
図書	1, 234	27	38	69	8	1, 376 冊
	509	20	24	29	8	590 種
語学ｶｯﾍﾟｯﾄ	1, 115	34	50	177	0	1, 376 本
	267	19	25	33	0	344 種
語学CD	167	0	0	31	0	198 本
	55	0	0	11	0	66 種

注) 同じ教材を複数購入しているので、種類数を記載している

表-10 ビデオライブラリー用

	英 語	仏 語	独 語	中国語	その他	計 (単位)
LD	356	16	5	1	11	389 種
VHS	601	68	83	49	2	803 本
	291	40	18	28	2	379 種

注) VHSには複数本数で1シリーズ構成になっているものがあるので、種類数を記載している

表-11 定期購読雑誌

	英 語	仏 語	独 語	中国語	計 (単位)
CD/セット付雑誌貸出用	6	1	1	1	9 種
雑誌閲覧用	9	0	0	1	10 種

(3)平成 11 年度の購入・寄贈による受け入れ冊数 (平成 12 年 3 月 1 日現在)

表-12 CD/セット付図書貸出用

	英 語	仏 語	独 語	中国語	日本語	計 (単位)
語学図書	91	0	0	55	0	146 冊
	40	0	0	20	0	60 種
語学セット	28	0	0	38	0	66 本
	8	0	0	9	0	17 種
語学CD	59	0	0	27	0	86 本
	21	0	0	10	0	31 種

注) 同じ教材を複数購入しているので、種類数を記載している

表-13 ビデオライブラリー用

	英 語	仏 語	独 語	中国語	その他	計 (単位)
LD	7	0	0	0	0	7 種
VHS	6	2	0	7	0	15 本
	17	4	0	7	0	28 種

注) VHSには複数本数で1シリーズ構成になっているものがあるので、種類数を記載している

表-14 寄贈本

	英 語	仏 語	独 語	中国語	日本語	計 (単位)
語学図書	8	0	0	0	0	8 冊
語学CD/セット	13	0	0	0	0	13 本
VHS	1	0	0	0	0	1 本

表-15 定期購読雑誌

	英 語	仏 語	独 語	中国語	計 (単位)
CD/セット付雑誌貸出用	6	0	1	1	8 種
雑誌閲覧用	9	0	0	1	10 種
寄贈	0	0	0	1	1 種

表-16 利用状況

	開館日数	CD/ネット付図書貸出	ビデオライブラリー	自学習室
学部生・院生	225	3,292	1,346	533
教職員		58	0	0
計	225 日	3,350 名	1,346 名	533 名

(4) 平成 11 年度図書費

表-17 図書費

	物品図書	継続雑誌	計
図書費	539,355 円	655,535 円	1,194,890 円

(1) 現状

学生の実用的な語学能力の充実と向上をはかるため、言語の文化的な背景を視聴覚の総合的な面から学ぶことができる CD/ネット付図書貸出とビデオライブラリーを運営している。本学学生が学部を問わず利用できる施設で、本センター主催の授業とともに、各々が自分に合った方法での語学学習を選択できる。

(2) 点検・評価

CD/ネット付図書貸出については、ここ 2.3 年の間に、発売される CD 付図書資料の種類が豊富に、また価格も安価になり、複数購入しやすくなった。特に語学試験用図書は、同時期に多くの学生が利用するので、資料が充実したことによって、利用する学生が増えた。資料購入にあたっては、運営委員をはじめとする教職員が、厳正な選考をおこなっている。また、学生が資料を借りる際に、参考になるよう、語学センター発行の NEWSLETTER に図書の特徴や内容、レベルを紹介したり、窓口で相談も受け付けている。

ビデオライブラリーについては、会話教材よりも映画を視聴する学生の割合が多い。映画については、日本語字幕付、英語字幕付、シナリオ本付、英語字幕の ON/OFF 機能付など各々のレベルに対応できるように購入している。吹き替え版は一切購入しない。

(3) 長所・問題点

語学センターは、視聴覚資料を学生に利用させている学内唯一の施設である。社会のグローバル化とそれに伴う学生の語学試験受験熱の上昇により、平成 4 年より開始した。CD/ネット付図書貸出のサービスも平成 4 年より開始したが、学生の要望にかなった非常に重要なサービスになっている。

ビデオライブラリーは、平成元年の開館当初からおこなっているサービスである。“言語の文化的背景理解やリスニング力強化のための視聴覚学習”を目的としている。作品の選定は、吹き替え版は一切購入せず、言語の美しさ、文化などがよく理解できるものを新旧問わず購入

している。当初は利用者も多く、「知らず知らずのうちにリスニング力が上がった」との声がよく聞かれた。その後、レンタルビデオ店などの台頭で、学生は吹き替え版により、“娯楽”として、映画を楽しむようになってきた。

(4) 将来の改善・改革に向けた方策

CD/カセット図書については、これからも語学試験問題集を収集する予定である。

学生は、語学試験受験にあたり、数多くの問題を解くことが必要であるが、解いた問題集を蔵書にしておく必要性はない。多くの学生が着実にステップアップできるように蔵書していく予定である。

ビデオライブラリーについては、上記の「長所・問題点」の理由により、個人の選択に任せての学習は、語学センターが意図するところと、学生が望む娯楽的なものに少しズレが生じてきた。そこで、現在は、科目を問わず視聴覚資料を利用しての授業が多くなっているのので、授業に準じた幅広い分野の視聴覚教材を収集し、さらに授業で導入できるようにする。授業の内容を増幅したいと願う学生の個人学習に発展させる方法が考えられる。